

新潟の花火づくり

工学部工学科 3年 渡邊美穂

概要

昨年度の新潟中小企業魅力発信演習において長岡花火大会に関わるいくつかの企業の中から新潟煙火工業株式会社を選び、取材させていただきました。長岡花火大会に限らず基本的にどの花火大会でも同じように力を入れていること、安全第一の花火づくりなど華やかな花火の裏にかけける熱い思いを聞いて感じたことをまとめました。

新潟煙火工業株式会社とは？

江戸時代末期に当主小泉勘治が信濃川水系を利用した水運業や米穀商を始め、二代目仁太郎が戊辰戦争時に軍需物資の輸送をした際に火薬と関わりました。そこからのろしや花火に興味を持ち、やがて初代仁太郎・小泉花火屋として花火製造が本業となりました。そして現在、五代目英一社長のもとで新潟市中央区白山に本社をかまえ、新潟市西蒲区にある工場で花火製造を行っています。長岡花火大会では目玉の一つであるフェニックスの打ち上げにも関わっており、県内外の花火大会で打ち上げをし、数々の賞を受賞されています。安全操業をモットーに観客に喜んでもらえる花火づくりに取り組んでいます。

花火づくり

新潟煙火工業では花火の製作から打ち上げまで一貫して作業を行っています。新潟といえば日本三大花火大会のひとつである長岡花火大会が有名であり、ここではフェニックスの打ち上げにも関わっています。長岡花火大会をはじめ、県内外の多くの花火大会に出品するにあたって大事にしていることは、一つ一つの大会を見に来てくれる観客を喜ばせることです。長岡花火に限らずどこに行っても観客に喜んでもらえる花火を作る

ためには膨大な手間がかかります。花火づくりに
おける工程で一から十までの全てが大事ですが、
特に神経を使うのは色を詰める作業です。色のつ
いた火薬玉の詰め方によって花火が開いた時の
形や色が変わってきます。また、打ち上げた玉の
開きを良くするために時間をかけて乾燥させる
必要があります。競技大会に出品するものは春間
近に製作に取り掛かるそうです。花火は形の残ら
ない作品だからこそ、観客の記憶に残るような花
火にしなければなりません。観客の思い出に残る
ものであり、玉ひとつひとつにかける時間と想い
には重みがあるものだと感じました。



▲長岡花火大会 フェニックス

「にいがた観光ナビ」

<https://niigata-kankou.or.jp/event/2441>

競技会上位入賞をかけて

競技会と花火大会の違いがはっきり分からないまま花
火を楽しんでいるという人もいるでしょう。競技会は部
門ごとに分かれ、それらを専門家などの方が審査をし、
出品された花火作品に優劣をつけるというものです。右
の写真のように入賞すると賞状やトロフィーが贈呈され
ます。また、競技会で下位が続くと他の競技会や花火大
会で呼んでもらえなくなります。その上で観客にも楽し
んでもらわなくてはなりません。両方のバランスが求め
られる中で花火師にとって技術やモチベーション向上の
ための場所でもあります。花火は娯楽のひとつでもあります、その裏ではより多くの
観客に楽しんでもらえるように厳しい世界で花火師たちはしのぎを削っていることを
感じました。



▲これまでの大会のトロフィー

安全操業をモットーに

花火という何よりも火薬の扱いに気を使わなければなりません。製作から打ち上げまで細心の注意を払って花火づくりに取り組んでいます。まず工場に入る際には「静電棒」という金属の棒を握って体に溜まった電気を逃がすことで静電気による引火を防ぎます。服の素材にも気を使っており、ポリエステルやナイロン系の服は静電気を起こしやすいため、静電気防止素材の服を使用しています。また、日によって非常に乾燥しているようなときには霧吹きなどの措置を行います。湿気を帯びさせることで火薬の配合の際にアルミ系の火薬の自然発火を防ぐことが出来ます。静電気による引火が特に怖く、こうした徹底的な管理体制のもとで花火づくりに取り組んでいます。



おわりに ～人材不足の対策～

今回の中小企業魅力発信演習においてどの企業にも共通して挙げられた課題ですが、新潟煙火工業でも人材不足の課題を抱えています。実際、観客に喜んでもらえる花火をつくりたいと若い人材が入ってきますが、仕事内容の現実と理想のギャップを感じる人が多いそうです。現在、新潟煙火工業ではこれから先人手不足が懸念される中、作業工程の機械化も視野に入れており、実際に玉に紙を張り付ける「玉貼り」の作業は機械で行っています。

では、人材不足に対してただ単に従業員を増やせばいいのでしょうか。仕事の幅を広げる、誰でもやりやすいようにハードルを下げるなど方法はいくらでもあると思います。しかし、花火業界は量より質の世界です。長岡花火大会で目玉のフェニックスにも関わり、競技会でも上位入賞している以上、高品質を維持していく必要があります。多くの人材を求めても一人前となるには数年はかかり、一度に多くの人に教えるのは難しいです。「質の維持」、「人材育成」のバランスを見極め、量より質が重視されるからこそ規模をあまり大きくせず、会社を維持できる程度の人数を確保していく必要があると感じました。

今回の取材を通して、何よりも観客に楽しんでもらえる良い花火を打ち上げたいということが強く伝わってきました。私たちにとって花火は娯楽の一つであり、時には大切な思い出として心に残るものでもあります。そしてその背景には花火師の並みならぬ努力と想いがあることを感じました。

新潟煙火工業株式会社ホームページ

[花火製造・打ち揚げ 新潟煙火工業株式会社 | 新潟市 \(niigata-enka.com\)](http://niigata-enka.com)

<参考文献>

- ・「長岡まつり大花火大会 | にいがた観光ナビ」
(<https://niigata-kankou.or.jp/event/2441>)(最終閲覧 2020/02/27)
- ・「ほぼ日刊イトイ新聞 - 感動の花火、『フェニックス』」
(<https://www.1101.com/phoenix/2010-07-23.html>)(最終閲覧 2020/01/06)
- ・「『新潟まつり』直前！新潟の夜空を花火で飾る『新潟煙火工業』。 | Things」
(<https://things-niigata.jp/other/enkakougyo/>)(最終閲覧 2020/01/06)